

2025 年の立冬は、11 月 7 日（金）です。

立冬は例年 11 月 7 日頃で、冬の始まりの目安です。

暦の上で冬になると、俳句など言葉の世界でも冬の季語を使い始めます。

たとえば、「小春日和」。「小春」は旧暦 10 月の異称で、現在の 11 月から 12 月上旬頃にあたります。春という言葉がついているので、つい、春先の暖かい日に使ってしまうがちですが、晩秋から初冬にかけての、暖かく穏やかな晴天のことを表す言葉で、「小春」は春の季語ではなく、冬の季語になります。

立冬の頃には「こたつ」を準備する「亥の子の日」に暖房器具などを出す「こたつ開き」という行事があります。「亥の子の日」とは、亥の月（旧暦 10 月）の最初の亥の日のことで、2025 年は「立冬」より少し早い、11 月 2 日になります。

こたつを出して使い始める「こたつ開きの日」の慣習は、江戸時代に始まったといわれ、「亥の月の亥の日」に、こたつを出して使い始めたそうです。

なぜ、亥の月の亥の日に「こたつ開き」をしたのでしょうか？

それは、亥（イノシシ）が火を避ける動物と考えられ、

この日にこたつを使い始めると火事にならないという言い伝えがあったからだそうです。



その他にも冬支度として、石川県金沢市の兼六園などで行われる雪吊りもこの時期に行います。

雪の重みで枝が折れないようにするための作業で、兼六園では、11 月 1 日に唐崎松から始まり、12 月中旬頃までこの作業が行われ、冬の風物詩として知られています。



日本で古くから冬の保存食として伝わる「干し柿」は、この頃に作り始めます。

干し柿は、よく晴れた日に天日に干して作られます。

また、寒風にさらすことで乾燥が進み、甘みが増します。

水分が抜けて甘みが凝縮された干し柿は、自然な風味が楽しめます。



『待ち人の 足音遠き 落葉かな』 与謝野蕪村

意味：待ち人の足音が遠くに聞こえる落ち葉の道だなあ。

落ち葉は踏みしめると音がします。作者の待ち人は後ろから近づいてきているのでしょうか、音の大きさからまだ遠くにいるなあと風情を楽しんでいる句です。